

平成30年度 シラバス（授業計画）

教科名	芸術 I	単位数	2 単位
科目名	音楽 I	対象学年	1 学年
科目分類	必修選択	授業形態	一斉 授業
教科書	高校生の音楽1(教育芸術社)	担当	鈴木
使用教材	教科書および配布プリント		
学習内容	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を通し、読譜力や音楽知識の基礎を身に付け、表現する楽しさを味わう。 ・日本の伝統音楽や諸外国の音楽にふれながら各国の音楽文化について理解を深め、幅広い感性を養う。 ・周囲と声や音を聴き合いながら創造的に表現する技能を身につける。 	
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(年間の授業の流れなど) ・校歌、「ひまわりの約束」斉唱、2声のヴォーカルアンサンブル曲を完成 ・楽典の基礎知識を習得 ・プリマスロック、クラッピング・カルテットなどのボディパーカッションを完成 ・校歌混声4部合唱、および混声3部または4部合唱曲を完成 ・「バルトの楽園」鑑賞 	授業時間 24 時間
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックギターの基礎知識と基本的な奏法の習得(メロディ奏、コード奏) ・聴音(簡単なリズム、旋律の記譜力の習得) ・ハンドベルを利用した創作活動 ・イタリア、ドイツ、アメリカなどの歌曲を歌い、曲の背景や文化への造詣を深める 	授業時間 26 時間
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の基礎知識と基本的な奏法の習得、および楽器の歴史を理解 ・ベートーベン作曲第9交響曲の楽曲分析およびオーケストラの響きを味わう、さらに曲の構成などの理解 ・合唱祭への取り組み補助として発声やハーモニーづくりの意見交換 	授業時間 20 時間
評価観点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を愛好し、音や音楽に関心を持ち意欲的、主体的に音楽活動を行っている。 ・各国の様々な音楽を理解し、その良さ美しさを創造的に味わっている。 ・感性を働かせて音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さ美しさを感じ創造的に工夫している。 ・自分らしいイメージを持ちながら創造的表現をする技能を身につけている。 		
評価方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、実技課題進捗状況、実技発表および試験、筆記試験、提出物、これらの観点を適宜組み合わせ、年間の成績を総合的に判断し評価する。		
備考			

平成30年度 シラバス (授業計画)

教科名	芸術Ⅱ	単位数	2 単位
科目名	音楽Ⅱ	対象学年	2 学年
科目分類	必修選択	授業形態	一斉 授業
教科書	TUTTI(教育出版)	担当	鈴木
使用教材	教科書および配布プリント		
学習内容	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の学習を土台に、音楽の諸活動から簡単な旋律の記譜や創作能力を高める。 ・日本の伝統音楽や諸外国の音楽にふれながら、音楽と社会や生活とのかかわりに関心を持ち、主体的に鑑賞する能力を高め、またより深く音楽文化を理解する。 ・周囲とのアンサンブルなどを通し、表現する喜びや感性豊かな表現活動をする力を養う。 	
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス(年間の授業の流れなど) ・校歌、「瑠璃色の地球」「島唄」斉唱、2声のヴォーカルアンサンブル曲を完成 ・楽典の基礎および発展知識を習得 ・校歌混声4部合唱、および混声4部合唱曲を完成 ・「オペラ座の怪人」「美女と野獣」を通し、ミュージカルへの知識を深める 	授業時間 24
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の音楽文化を通し琉球音階を利用した創作活動 ・聴音(リズム、旋律記譜力の習得) ・オペラとミュージカルの特徴と相違の理解 ・様々な楽器を使った合奏 	授業時間 26
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の基礎知識と基本的な奏法の習得、および楽器の歴史を理解 ・イタリア歌曲の独唱 ・合唱祭への取り組み補助として発声やハーモニーづくりの意見交換 	授業時間 20 時間
評価観点	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を愛好し、音や音楽に関心を持ち意欲的、主体的に音楽活動を行っている。 ・各国の様々な音楽を理解し、その良さ美しさを創造的に味わっている。 ・感性を働かせて音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さ美しさを感じ創造的に工夫している。 ・自分らしいイメージを持ちながら創造的表現をする技能を身につけている。 		
評価方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、実技課題進捗状況、実技発表および試験、筆記試験、提出物、これらの観点を適宜組み合わせ、年間の成績を総合的に判断し評価する。		
備考			